第５学年　総合的な学習の時間学習指導案

日　時　令和元年10月28日（月）　第２校時
単元名　祠のひみつ　～藤脇と若宮～
学習者　第５学年　９名
指導者　河野　眞人
育成を目指す資質・能力
【知識・技能　課題発見・解決力　思考力・判断力・表現力　協働的な態度】

１　単元について

単元観

本単元は，地域に残されている藤脇の祠に着目し，安徳天皇にまつわる史実や，藤脇との関わりについて調べることを通して，自分達が生活している郷土に対して新たな発見をし，愛着をもつことをねらいとして設定したものである。

明徳中学校区のある藤脇地区は，平氏にまつわる安徳天皇との繋がりが深い。源平合戦で平氏が壇ノ浦に向け敗走する途中，対岸の江田島王泊に宿泊した。その際，安徳天皇（若宮）の疲れを癒やすため，当時，松原であったこの地を訪れている。後に安徳天皇の悲惨な最期を伝え聞いた先人が，この地に祠を建て，祀っている。また，安徳天皇をもてなすために作られた「もぶりめし」は，今でも郷土料理として残っている。

本単元では，身近な地域について調べ，発信することで，児童が関心や意欲をもって情報収集，資料活用したり，史実から思考を深め，地域住民に伝えるための表現内容の選択，表現方法について考察したりできることから，育成を目指す資質・能力のうち【思考力・判断力・表現力】の育成を図ることができるものと考える。

児童観

本校では，総合的な学習の時間に地域学習を系統的に取り組んでいる。本学級の児童は，第３学年で，環境面から地域の海の水質を調べ，第４学年では統合した学校の歴史から，地域について学んできた。地域の歴史上の人物に関わる学習は今回が初めてとなるため，地域（藤脇）に関する歴史上の人物についてアンケートをとったところ，30%の児童が若宮という人物を回答した。それが，天皇であったこと，もぶりめしを食べたことは知っているものの，史実や藤脇との関係については深く知らないものと思われる。

児童はこれまで，総合的な学習の時間を中心として，インターネットや書籍，インタビュー等で情報収集する活動は積み重ねてきた。また，地域の海の環境保全についてリーフレットにまとめ，公共施設に配付したり，学校の歴史についてプレゼンソフトを使ってプレゼンテーションをしたり，劇による発表も経験したりしてきている。しかし，収集した情報をまとめて発信することはできるが，集めた情報を精選したり，組み合わせたり，より効果的に伝えるための表現方法について考察したりすることについては課題がある。

指導観

指導に当たっては，藤脇の祠に着目し，その石碑に書かれている言葉を基に「安徳天皇にまつわる疑問をはっきりさせ，地域に伝える」という課題を設定し，それを自分達でまとめ，適切な表現方法を選択して発信するといった課題解決に向けた活動を設定する。

単元導入時には，おぼろげに知っている安徳天皇について，石碑の言葉から「安徳天皇はどんな人なのか」「どうして藤脇に来たのか」という疑問を導き出し，課題設定をする。設定後は，それぞれの観点でグループに分かれて情報収集させ，観点に沿って収集した内容を精選したり，より効果的に伝えるための表現方法について考察させたりする。表現方法を考察させる場面では，国語科「資料を生かして考えたことを書こう」と関連・発展させた表現方法の利点と欠点を考察の一助とさせると共に，論述ツールを活用して個々の考えをまとめ，グループで共有，深め合う活動とする。表現の対象は地域住民とし，２つのグループの発表をまとめて発信させる。

振り返りの場面では，目的に応じた調べ学習だったか，相手意識や発信方法は適切だったかについて振り返らせる。その際，地域の人から感想をもらえるよう用紙を用意しておき，外部からの評価を受けられるようにしておく。

2　単元の目標

○　祠の石碑から，源平合戦における安徳天皇と藤脇との関係に気付くと共に，郷土料理（もぶりめし）として受け継がれていることを知る。【知識・技能】

○　祠や郷土料理（もぶりめし）を手がかりにして，課題を見出し，情報を収集すると共に，課題解決のために筋道を立てて考え，収集した知識や情報を分類，関係付け，整理することができる。【思考力・判断力・表現力】

○　安徳天皇と藤脇の関係について，自分の考えをもち，友達と協働して地域に伝えようとすると共に，自分達の活動を振り返り，地域に愛着をもつ。【学びに向かう力・人間性】

3　単元の評価規準及び資質・能力

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	学びに向かう力・人間性
単元の評価規準	・地域に残された祠が，源平合戦と平氏の盛衰に関係していることに気付く。 ・安徳天皇をもてなした「もぶりめし」が郷土料理として地域に受け継がれていることを知る。	・祠や郷土料理（もぶりめし）を手がかりにして，課題を見出し，情報を収集している。 ・課題解決に向け，収集した情報を分類，関係付け，整理し，効果的に表現している。	・課題について，自分の考えをもち，解決のために友達と協力して進んで行動しようとしている。 ・自分達の活動を振り返り，地域に誇りや愛着をもっている。
資質・能力	知識・技能	思考力・判断力・表現力 課題発見・解決力	協働的な態度

4　指導計画（本時７／21 時間）

次	時	主な学習内容	評価の観点			評価規準（評価方法）【資質・能力】
			知技	思判表	学人	
一	1 2	・校区の探検をし，藤脇の祠に興味をもつ。 【課題の設定】 ・藤脇の祠に書かれている内容から課題意識をもち，課題設定をする。 ＜藤脇の祠から＞ 「どんな人なのか」 「どうして藤脇へ来たの		○ ○		・校区を探検する際，藤脇の祠に着目し，疑問をもっている。 （観察・発言）【課題発見・解決力】 ・藤脇の祠に書かれている内容から疑問点を見付け，課題を設定している。 （発言・ワークシート）【課題発見・解決力】
	3 4 5 6	【情報の収集】 ・グループごとに本やインターネットで調べて，情報を収集する。	○			・地域に残された祠が，源平合戦と平氏の盛衰に関係していることに気付くことができる。 （ワークシート・観察･発言）【知識・技能】

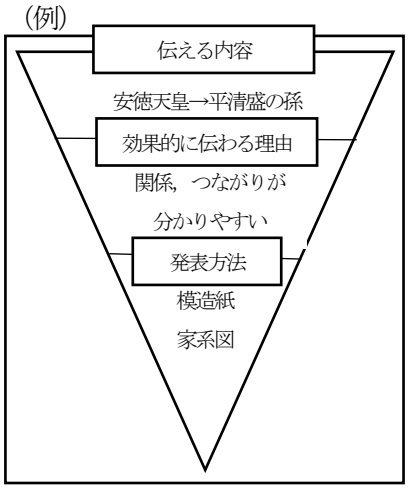
二	7 本 時 8	【整理・分析】 ・調べた内容を整理，分析し，効果的な発表方法について話し合う。 ・グループごとの発表を受け，２つの調べた内容を地域の人にどのように発信するか構成を考える。		○		・グループで，安徳天皇にまつわる伝えたい出来事を選び，効果的な発表方法も含めてクラスに提案している。 （ワークシート・観察･発言） 【思考力・判断力・表現力】 ・どのような構成にすると効果的であるか考えている。 （観察･発言）【思考力・判断力・表現力】
	9 10 11	【まとめ・創造】 ・グループで決めた発表方法を基に，準備，練習をする。			○	・グループで決めた発表方法を基に，協力して準備，練習しようとしている。 （観察･発言）【協働的な態度】
三	12	【表現】【実行】 ・地域の方に発表を聞いてもらう。（食生活改善推進員）		○		・聞き手に意図が伝わるように，話の構成や資料の見せ方を工夫している。 （観察・発言）【思考力・判断力・表現力】
四	13	【課題の設定】 ・食生活改善推進員の話を聞き，郷土料理（もぶりめし）について知る。 ・郷土料理（もぶりめし）を受け継いでいくために，自分達ができることを考え，課題を設定する。	○		○	・安徳天皇をもてなした「もぶりめし」が現在も郷土料理として受け継がれていることを知る。 （ワークシート）【知識・技能】 ・課題について，自分の考えをもち，解決のための方法を考えようとしている。 （発言・ワークシート）【協働的な態度】
	14 15	【情報の収集】 ・「もぶりめし」作り，レシピや由来の作成等を行う。		○		・「もぶりめし」について収集した情報を整理している。 （観察･発言）【思考力・判断力・表現力】
五	16	【整理・分析】 ・調べた内容を整理，分析し，発信の構成を考える。		○		・どのような構成にすると効果的であるか考えている。 （観察･発言）【思考力・判断力・表現力】
	17 18 19	【まとめ・創造】 ・準備，練習をする。			○	・グループで決めた発表方法を基に，協力して準備，練習をしようとしている。 （観察･発言）【協働的な態度】
六	20	【表現】【実行】 ・地域に向け発表する。		○		・聞き手に意図が伝わるように，話の構成や資料の見せ方を工夫している。 （観察・発言）【思考力・判断力・表現力】
	21	【振り返り】 ・地域の人からの感想や，友達の意見を参考にしながら活動の振り返りをする。			○	・目的に合った調べ学習ができたか，相手意識，発信方法は適切だったかについて振り返ろうとしている。 （発言・ワークシート）【協働的な態度】

5　学習活動

（1）　本時の目標

伝えたい内容を整理し，効果的に伝えるための発表方法について話し合い，まとめることができる。

（2）　本時の展開

	学習活動 主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 支援が必要な児童（生徒）への手立て（〇） 評価規準（☆）（評価方法）【資質・能力】
つかむ	1　めあてを把握する。		
	伝えたい内容を整理し，効果的に伝えるための発表方法について話し合い，まとめよう。		
	2　伝えたい情報を選ぶ。 ・知らせたい情報を選んで，どう発表するか考えましょう。	・源平合戦で，どのように逃げたのか伝えたい。方法は，地図にまとめると分かりやすい。 ・壇ノ浦の最後の様子を伝えたい。劇にすると様子が分かる。	・グループで調べた内容のうち，知らせたい情報に赤の付箋，効果的な発表方法は青の付箋に書き込ませ，資料に貼らせる。
考える	3　グループで検討をする。 ・伝える内容をしぼり，より効果的な発表方法になるよう考えを深めましょう。	・安徳天皇が平清盛の孫にあたることを知らせたい。 ・関係が分かるように図にまとめるとよい。 ・大きく見せるのに，模造紙に家系図にして見せるのがよい。	・付箋を基に，どの情報を選択するか，選択した情報の効果的な表現方法は何か，について話し合わせる。 〇困っているグループには，国語科で作成した発表方法別による利点と欠点を掲示しておき，振り返らせる。
まとめる	4　グループでまとめ，発表する。	(例)  	・逆ピラミッドチャートを使ってまとめさせる。上段には伝える内容，中段にはそれが効果的に伝わる発表方法の理由，下段にはその発表方法を書かせる。 ・逆ピラミッドチャートを使いながら，調べて分かったことや，発表方法を選んだ理由を付けての発表にさせる。 ☆グループで，安徳天皇にまつわる伝えたい出来事を選び，効果的な発表方法も含めてクラスに提案している。 （ワークシート・観察･発言） 【思考力・判断力・表現力】
	(例) ぼく達のグループは，安徳天皇は，音戸の瀬戸を切り開いた平清盛の孫にあたることを伝える。この関係が分かるようにするためには，家系図や表を取り入れるとよいので，それらを模造紙に書く方法で発表する。		
振り返る	5　本時を振り返る。	・グループで話し合い，伝えたいことをまとめることができた。 ・伝えたいことを選んで，よりよい発表方法を考えることができた。	・めあてに沿って振り返らせる。 ・次時の予告として，発表の構成を考えることを伝える。

６　単元で育成を目指す資質・能力に係る成果と課題

（１）　単元で育成を目指す資質・能力　【思考力・判断力・表現力】

本単元では，身近な地域について調べ，発信することで，史実等から情報収集したり資料活用したりすること，また，「祠のひみつ」について地域住民に伝えるための表現内容の選択，表現方法について考察することができることを【思考力・判断力・表現力】と設定した。

（２）　資質・能力育成のための手立て

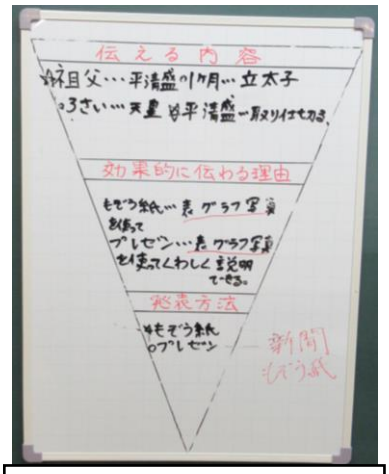
単元導入時には，校区と歴史上関わりのある安徳天皇について，地域に残されている祠の石碑の言葉を手がかりに，「安徳天皇はどんな人なのか」「どうして藤脇に来たのか」という疑問を導き出し，課題設定を行った。

次に，課題別に，グループに分かれて情報収集させ，収集した内容を整理・分析させた。学習発表会で地域に発信するという目的を持たせ，より効果的に伝えるための表現方法について考えさせ，情報の精選と，表現方法について考えさせた。その際，国語科で学習した，表現方法の種類や，その利点と欠点を参考にさせると共に，論述ツールを活用して個々の考えを出し合い，グループで共有，まとめる活動とした。

（３）　単元の評価規準

・祠や郷土料理（もぶりめし）を手がかりにして，課題を見い出し，情報を収集している。
・課題解決に向け，収集した情報を分類，関係付け，整理し，効果的に表現している。

（４）　成果と課題



効果的な発表方法の話し合い（論述ツール）

○　「安徳天皇はどんな人なのか」という大きな課題をもった児童が集まり，「家族を調べてみたい。」「どうして天皇になったのか理由を調べてみたい。」等，個々の課題へとつなげて取り組み，課題解決していくことができた。また，「どうして藤脇に来たのか」という課題に対しても同様に個々の課題を設定し，取り組むことができた。

○　伝えたい内容を精選し，効果的な表現方法について考える場面では，「安徳天皇の家族関係は，家系図にまとめて紹介した方が分かりやすい。」「もぶりめしで安徳天皇をもてなすことは，村人の気持ちが伝わるよう劇にして発表したらいい。」等の発言があった。資料として使った表現方法の利点と欠点を活用し，考えることができていた。

○　児童がもぶりめしを実際に調理し，試食したことで，「このおいしい郷土料理をみんなにも作ってもらいたい。」と考え，もぶりめしのレシピを作成し，発表会当日に地域の方に持ち帰ってもらえるよう用意した。

○　安徳天皇のお墓が奉られている赤間神社について調べていた児童が，６年生が修学旅行でこの神社に立ち寄ったことを知り，６年生担任にお願いして写真を提供してもらい，発表時の資料として活用することができた。

上記の６点から，思考力・判断力・表現力を育成することができたと考える。
なお，児童の主体的な学びを更に促すため，次の点について，今後の取組に生かしいていく。

●　もぶりめしについては，地域の食生活推進員に協力していただき，聞き取りや調理を通して情報を収集できたが，その他の史実についてはインターネットを使っての情報収集が主となってしまった。今後，児童が多様な方法で情報収集できるよう，地域の人材ネットワークを作っていく必要があると考える。